こだま

第200号
2020. 1

ISSN 0915-8782

金沢大学附属図書館報 “こだま”
https://library.kanazawa-u.ac.jp/

CONTENTS

特集：写真でみる金大図書館 今昔物語……1
図書館ブックトーク＃3「出版という仕事：
　出版社社長が語る本作りの楽しさ」……6
金大生のための読書案内－教員から学生へ ……9
トピックス／とぼらニュース ……10
「金大図書館時習基金」11月1日スタート！……12

「こだま」200号・中央図書館開館30周年記念特集

写真でみる金大図書館　今昔物語

書庫として使われていたこともある金沢城三十間長屋

丸の内キャンパスの中央館

角間移転（1988）

薬学部図書室
宝町キャンパス
薬学部実験研究棟５階

工学部分館
小立野キャンパス
工学部管理棟２階

竣工当時の自然科学系図書館（2005）

医学図書館

リニューアル（2013）

図書館今は昔クイズ

下の写真は平成元年頃，図書館で使っていた物品です。何のために使っていたものでしょうか？

正解はp.4

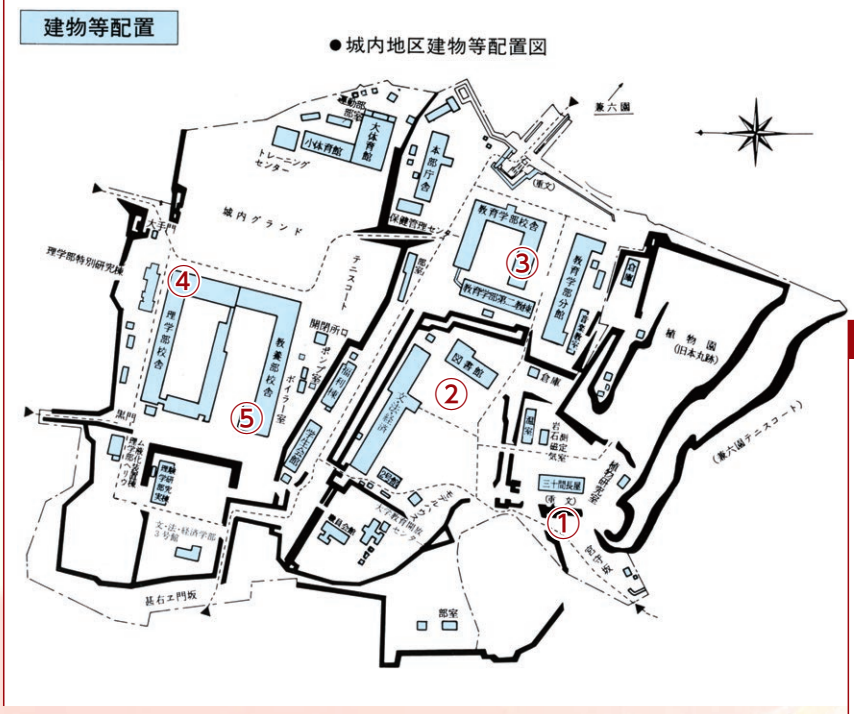
金沢大学附属図書館報「こだま」が，今号で200号となりました。1970（昭和45）年9月に月刊で発行された後，約50年間，現在は年3回，図書館利用者に向けた記事を提供し続けています。さらに今年は1989（平成元）年に中央図書館が角間北キャンパスに開館して30年になります。今号は，これらを記念して，過去の「こだま」の表紙や大きなトピックの写真などを使った特集号としました。新旧の図書館を対比し，過去を振り返りながら，新しい図書館のあり方を考えるきっかけになれば幸いです。

※巻頭特集の写真の出典：「金沢大学附属図書館概要」「金沢大学概要」「金沢大学創基150年史」「金沢大学写真で見る50年」及び職員の撮影

平成元年に戻ってみると…

中央図書館が角間キャンパスに移転する直前の1989（平成元）年に戻ってみましょう。当時，金沢大学は，現在金沢城公園となっている丸の内にメイン・キャンパスがありました。中央図書館があったのは，金沢城の二の丸の場所です。その他の学部（当時はこの呼称でした）も以下の平面図のとおりで，それぞれの学部に図書室が設置されていました。ちなみに，さらに時代を遡ると、何と，現在重要文化財になっている三十間長屋に中央図書館があった時代もあります。今はどこもすっかり観光地ですね。

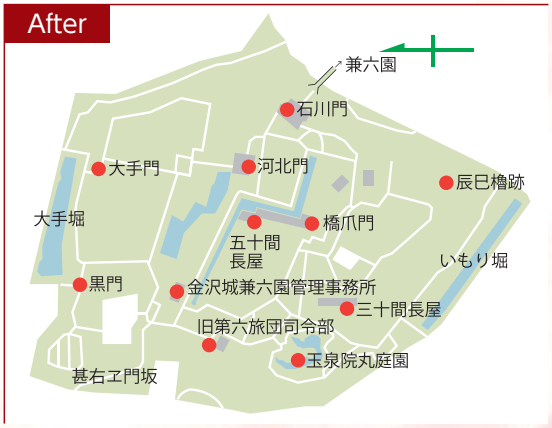
Before



①中央図書館（1950 ～ 1965 三十間長屋を書庫として利用）
②中央図書館（1965 ～ 1989、その後、丸の内図書館～ 1992）
③教育学部図書室
④理学部図書室
⑤教養部図書室

（出典）金沢大学概要平成元年度版

After

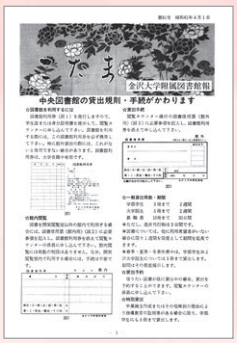


現在の金沢城公園の建物配置図

「こだま」刊行当初は、B5版縦書きでした。イメージとしては，新聞の体裁に近く，何と毎月発行。その後，60号（1980）からは，年４回発行に，81号（1986）からは横書きに変わり，タイトルが大きくなりました。ちなみに，「こだま」というネーミングは，「図書館から発せられた諸情報が，大学の教職員や学生に読まれて，いろいろの形で図書館に戻って来て欲しいとの願い」（注）を期待したものです。また，「こ・だ・ま」のタイトルの3文字は，藤原公任，藤原行成，紀貫之の書から集字して作ったもので，現在も使っています。
（注）大橋秀二 『「こだま」創刊の頃の思い出』こだま100号，1991年

創刊号（1970）

5号（1971）

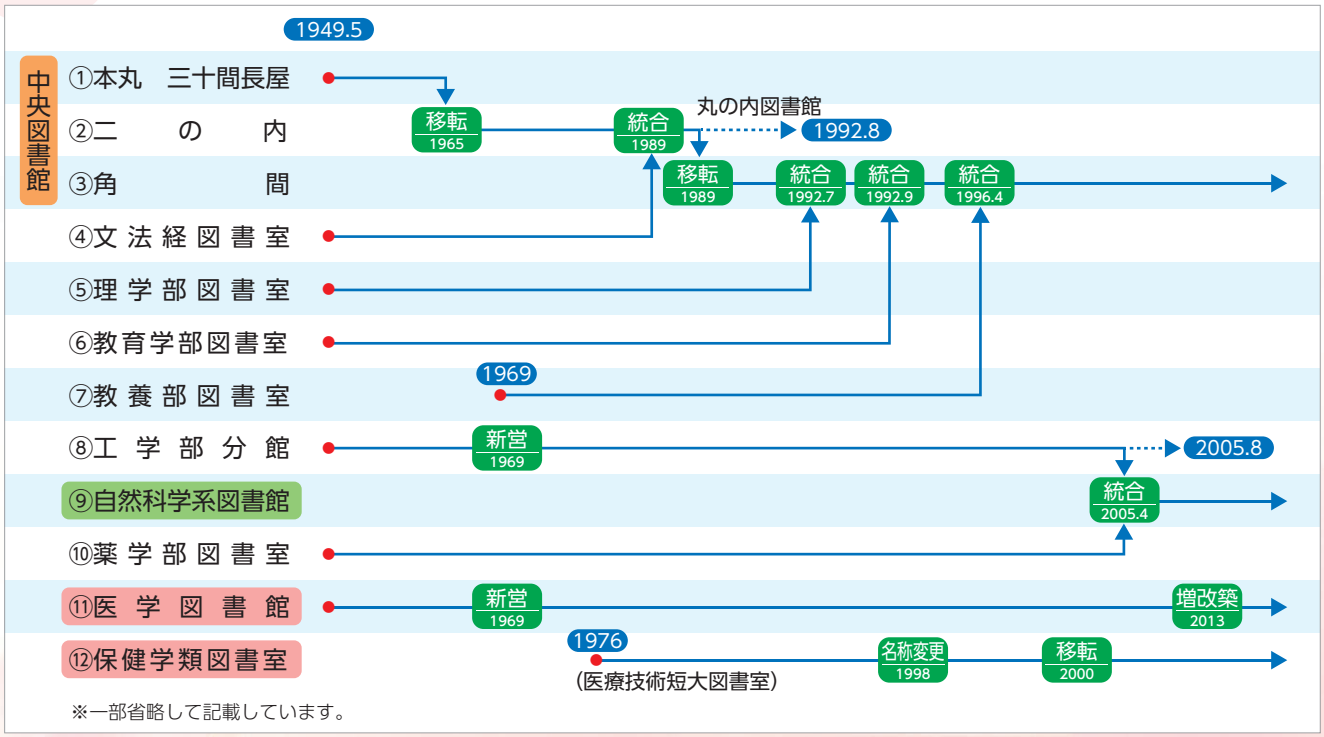

81号（1986）

95号（1989）

100号（1991）

組織の変遷とデータでみる金大図書館の歴史

現在、３館１室体制の附属図書館。過去には多くの図書館があり，新築・増改築・統合等を繰り返してきました。



	1988年度		2018年度
総蔵書冊数	118万冊	60%増↗	191万冊
総入館者数	46万人	54%増↗	71万人
総館外貸出数	8万冊	50%増↗	12万冊
中央図書館の貸出規則	5冊まで2週間貸出可		10冊まで3週間貸出可
中央図書館の開館時間	平日は通常20:00まで開館		平日は通常22:00まで開館

107号(1992)は「さよなら丸の内図書館」号。109号(1993)からは，公文書の規格変更に合わせ，A4サイズに。タイトルの地の色は，4月号緑，7月号青，10月号黄，1月号赤というように、季節の色を配し，地模様は，許可を得て，加賀友禅作家の初代・由水十久(ゆうすいとく)の「さやぐ，おどる」を使っていました。さりげなくこだわりのあるデザインでした。2000年頃からは，図書館の電子化関係の記事が増えてきます。

107号(1992)

109号(1993)

114号(1994)

127号(1997)

136号(2000)

中央図書館，角間キャンパスへ移転

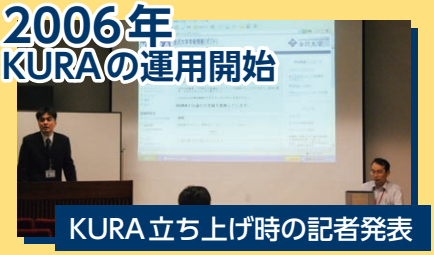
丸の内キャンパス旧中央館での移転準備作業

当時の思い出　ひと夏をかけて，約40万冊を移動した大作業でした。就職1年目の私は，運送会社に就職した気分でしたが，先輩職員が配架計画やサイン計画を綿密に考える姿を間近に見て，図書館の仕事の基礎を学ぶことができました。今でも利用法の基本は変わっていません。（情報サービス課長・橋　洋平）

造成中の角間北キャンパス

2000年頃～ 学術雑誌の電子化・オンライン化

2006年 KURAの運用開始



KURA立ち上げ時の記者発表

1989　　1992　　2000

1989～1992 カード目録からOPACへ

移転当初の中央図書館カード目録コーナーと検索コーナー

表紙のクイズの正解は**「カード目録」**
1992年までは，蔵書1冊ごとにカードを作成して，書名順や著者名順，分類番号順のカードケースに組み込んでいました。

蔵書検索の方法がカード目録（写真奥）からオンライン検索（写真手前）へと移行していった時代でした。インターネットの普及前でWiFiもなかった時代，図書館の検索コーナーは連日，大盛況。スマホで，館内のどこからでも検索できる時代が到来するとは当時は予想もできませんでした。

著者名カード目録

自然科学系図書館　開館

当時の思い出　まず薬学部図書室を宝町から角間に仮移転し，その後，自然科学系図書館の竣工を待って再度資料の移動を行いました。開館半年後に工学部分館の資料を収めることができたときはホッとしました。この頃，自動化書庫を導入している図書館はまだ珍しかったのですが，入庫にあたり資料（特に製本雑誌）の所蔵のデータ化が進みました。また，急遽PFI事業が導入され，設計デザインが大きくかわったことも忘れられません。（中央図書館係長・押見智美）

図書自動貸出返却装置を導入

145号（2002）

表紙の写真がカラーに

153号（2004）

中央図書館の壁面を使った明後日朝顔プロジェクト特集

170号（2010）

タイトル背景の地がなくなり，現在のデザインと同じに

171号（2010）

金沢21世紀美術館 秋元前館長との対談

173号（2011）

30年で特に変化が大きかったのが外国雑誌。最新の学術雑誌論文は電子ジャーナル(EJ)で得る時代になりました。
図書館では，「学術情報は電気や水道と同じく大学が提供すべきインフラである」という考えのもと，学術情報基盤整備計画を策定し，安定供給に取り組みはじめました。

EJの普及とともに，研究論文を掲載した雑誌(ジャーナル)の価格高騰がさらに深刻な課題となっています。これに対抗して，研究者自身が研究成果をWebで公開するシステム「金沢大学学術情報リポジトリKURA」を立ち上げました。
※KURAはKanazawa University Repository for Academic Resourcesの頭文字です。大事なものを収める「蔵」の意味も持ちます。

旧医学図書館の閲覧カウンター

現医学図書館の閲覧室

医学図書館リニューアル

当時の思い出　旧外来診療棟への仮移転，什器の予算不足など様々な難題をクリアしてリニューアルオープンした医学図書館でした。2010年3月の異動内示の時には，任務が「医学図書館増改築の取り組み」と知って思わずしゃがみ込むほど青天の霹靂でしたが，実に多くの方々のお力添えのおかげで，どうにか役割を果たすことができました。色々ありましたが，結構楽しんでやっていたように思います。(元図書館職員・中本悦子)

2005　2006　2010　2013　現在

旧工学部分館の閲覧室

現自然科学系図書館の閲覧室

中央図書館にラーニングコモンズ&カフェ設置

当時の思い出　カード目録などをバックヤードに移してできた空間に丸くてかわいらしいカフェが誕生しました。動かして使うカラフルなデスクやたくさんのホワイトボード，ガラスで仕切られた開放的で明るく賑わいのある空間は新鮮で，まさに新風と感じました。
(情報企画課副課長・香川文恵)

改修前の新聞閲覧コーナー

改修後の現ブックラウンジ
(上の写真と同じ場所です)

新入生向けのクイズ企画

183号(2014)

ビブリオバトル特集

187号(2016)

LAとLeCISによる館内での学修相談開始

188号(2016)

図書館にラーニングコモンズが設置された，2010年以降は，学生向けの記事が増え，誌面の雰囲気も一気に華やかになりました。
附属図書館に求められる役割の変化とともに，図書館報のデザインも変わってきています。これからも「こだま」をご愛読ください。
(このコーナーの担当：橋　洋平)

図書館ブックトーク＃3スペシャル版

出版という仕事

出版社社長が語る本作りの楽しさ

日時：令和元年10月30日（水）13：00～16：00
会場：金沢大学附属図書館 中央図書館AV室

出版社5社の社長，元社長を講師にお迎えし，ブックトークイベントを開催しました。今回の企画は，出版業界を志望する学生の就職活動を支援すると共に，図書館利用者の読書に対する意欲や知的好奇心を喚起することを目的としたものです。全体で60名もの参加があり，会場は大いに盛り上がりました。

柏書房

代表取締役社長
富澤凡子 氏
司会進行

柏書房は歴史・人文を中心とした専門書と一般書の間をゆるゆると刊行している出版社。古文書やくずし字の辞典などが看板商品。今回はコーディネーターとしての参加なので，詳細は「柏書房102」と検索していただければ。

大学図書館や公共図書館を訪ねて本を紹介するのも出版社の仕事だが，そのなかで，意外と学生の皆さんが出版社の仕事について知らないという話になり，今回のイベントの開催につながった。この機会に，出版社の多岐に渡る仕事内容の片鱗でも皆さんに伝われば と思う。

原書房

代表取締役社長
成瀬雅人 氏

原書房は比較的小規模な出版社なので，生き残るために他社が出さない本やすきまを狙ったエッジの効いた本を意識的に作って，存在感をアピールし続けてきた。会社を守るためには一般受けする本も作らなければならないが，長く続けていくためには個性的な本も必要。両者のバランスを取りながらやっている。

たった1冊の本を作るにも，非常に多くの人が関わるのが出版。そんな出版業界は，悪循環が繰り返されて右肩下がり。紙の雑誌の販売部数はここ20年ほどで約4分の1まで落ちている。電子書籍の売上は順調に見えるが，その伸びはほぼコミックによるもの。他はあまり伸びていない。電子書籍が伸びても関連会社の収益には繋がりにくいが，現状としていま産業全体が大きな構造転換の途中にある。業界志望者には，今後もこの状況が続くことを覚悟して就職を考えてもらえればと思う。

東京創元社

前代表取締役社長
長谷川晋一 氏

いまはジャンル小説の専門出版社だが，入社当時は海外の翻訳出版が専門だった。まず海外の情報を集め，企画を立てる。企画が通れば翻訳の確認から装丁部分まで色々やる。編集者は企画が命。売れることも，売れることが期待できない部分で評価されることも非常に大事で，このバランスを取りながら本を作る。リサーチはしても，実際に出してみるまで当たるかどうか分からないところがおもしろい。あくまで私見だが，出版は博打。編集者はある意味博打うち。

東京創元社の電子書籍は紙の新刊と同時発売だが，需要は食い合っていない。電子コミックは増，小説は横ばい。しばらくは全体の売上高の約7～8%を占める現在の水準で推移しそう。右肩下がりだが，本作りに携わりたいならぜひ出版業界へ。自分は生まれ変わってもまた同じ会社に入りたい。もし業界に入るなら，そんな骨を埋めてもいいほど好きな会社を見つけてほしい。

平凡社

代表取締役社長
下中美都 氏

創業者（祖父）が貧しい環境から抜け出す原点となったのが貴い物の百科全書。紙の百科事典を売っている最後の出版社になった。出版社はわずかに売れる本とほとんどの売れない本，一過性で売れる本とロングセラーの本を組み合わせて生きている。儲からないが，一生世の中の役に立つものを作りたい，おもしろく仕事をしたいなら出版業界へ。職種を問わず，本作りのおもしろさはやってみないと分からない。

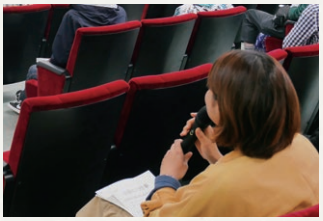
他社のファッション誌にも編集として長く携わり，そこで流行の周期をずっと見ていた。現代の流行は，ネットの情報で何かを得ること。確かにネットの方がいま自分の欲しいものに直接つながれる。しかし雑誌はもう少し世界を深めることが，書籍はさらに世界を掘り下げることができる。5年後10年後も変わらず残る。本よりよいものはこの世に無いと断言する。興味があればぜひ業界に来てほしい。

筑摩書房

元代表取締役社長・現顧問
菊池明郎 氏

出版社の2つの柱は編集と営業。いい本でも，営業が下手なら読者に届かず，売れない。営業がよければ売上もぐっと伸びる。営業として入社した当初は，車で各地の書店を巡る行商のような仕事をしていた。当時はおもしろいように本が売れる時代だった。しかし，30歳の時に会社が倒産した。原因は，実際の需要を超えた無理な送本により大量の返品が生じていたことだった。その後，みすず書房の営業部長が書かれた本を参考に販売データの把握・分析を行い，データに忠実な商売で会社を立ち直らせることができた。

読者に求められる本を無理のない部数作って届けるには，営業と編集の密な意見交換，情報交換が不可欠。がんばっている会社はそこがしっかりしている。最後は個々の出版社次第。日本の出版業界にもまだ工夫の余地がある。本が好きで，志のある人はぜひ来てほしい。会社の発展にますます営業が大事な時代になってきていると思う。



Q&A

Q．おもしろそうな（翻訳）本の企画はどのようにして生まれるのか？

A．海外の本を紹介してくれる出版エージェンシーからの紹介や，海外の書評誌，キーワード検索による情報収集などから，よさそうなものを選んで出版する。ただ，本と出合った時に「これは」と思えるかどうかは各編集者の感性によるところが大きい。

Q．文化には流行があるという話があったが，出版社としての変化や最近の流行は？

A．ネット時代に入って広告が変わった。著者自身がツイートしたものを書店がリツイートする時代。「いいね」やフォロワーの数が著者の情報として企画会議に上がってくるようになった。

Q．理系だが，出版に関係のない分野の学生も採用することはあるか？

A．文理関係なく，自分の「これをやってみたい！」という強い思いを具体化できるのが出版社。／全く違う経験があるのは強い。他の経験をしてから，やはり本が作りたいと思う人が他所から出版業界に入ってくれることが，今後の業界にとって大切。

Q．本の「ここだけは負けない」というのはどんなところか？ 本というメディアの役割は？

A．本＝紙の束であるところ。手触りや姿。デジタルにはない皮膚感覚を刺激するものがある。／ネットに溢れている一過性の情報を判断する自分の教養やセンスを育ててくれるのは雑誌や本。

参加者の声

どの方も本当に本が好きでお仕事をされているということが伝わってきた。すぐに出版社に就職，ではなく，他の業界を見た後の選択肢として出版社を考えようと思う。その方がより楽しんで仕事ができそう。今後は書店や図書館のお話も聴きたいと思う。（地域創造学類3年）

各社長さんの本への愛情と熱意がとても感じられ聴いていてとても楽しかった。出版の仕事についても様々な面のお話が聴けて興味深かった。本作りがとても楽しそうでやりたくなった。（人文学類2年）

必見！社長さんの推し本！

自社のおすすめ本を選んでもらいました。
中央図書館や自然科学系図書館で所蔵しています。
ぜひ手に取ってみてください。

平凡社 HEIBONSHA

『有職装束大全』
『幸田文しつけ帖』
『幸田文台所帖』
『幸田文きもの帖』
『寺田寅彦　科学者とあたま』
『中谷宇吉郎　雪を作る話』
『牧野富太郎　なぜ花は匂うか』
『中西悟堂　フクロウと雷』
『中村桂子　ナズナもアリも人間も』
『野見山暁治　人はどこまでいけるか』
『安野光雅　自分の眼で見て，考える』
『ルース・スレンチェンスカ
九十四歳のピアニスト一音で語りかける』
『黒沼ユリ子　ヴァイオリンで世界から学ぶ』

柏書房 KASHIWASHOBO

『「舞姫」の主人公をバンカラとアフリカ人がボコボコにする最高の小説の世界が明治に存在したので20万字くらいかけて紹介する本』
『日本のヤバい女の子』
『パリのすてきなおじさん』
『日本のインテリアデザイン全史』
『歴メシ！』
『ベートーヴェン捏造』
『だから私はメイクする』
『世界の中の日本地図』
『植物たちの救世主』
『段ボールはたからもの』

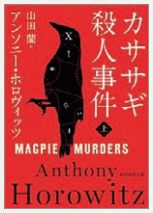
筑摩書房

『思考の整理学』
『82年生まれ，キム・ジヨン』
『ベルリンは晴れているか』
『命売ります』
『友だち幻想』
『ハーメルンの笛吹き男』
『こちらあみ子』
『日本の歴史をよみなおす（全）』
『現代語訳　論語と算盤』
『現代語訳　学問のすすめ』

東京創元社 TOKYO SOGENSHA

ミステリ・SF・ファンタジー・ホラーの専門出版

『カササギ殺人事件』
『時空旅行者の砂時計』
『屍人荘の殺人』
『戦場のコックたち』
『刑罰』
『自由からの逃走』
『薔薇の名前』
『流浪の月』
『星を継ぐもの』
『滅びの鐘』



日原書房

『物語北欧神話』
『発酵食の歴史』
『中東世界データ地図』
『世界毒草百科図鑑』
『地図とデータで見る
移民の世界ハンドブック』
『地図で見るアフリカハンドブック』
『図説世界史を変えた数学』
『世界から消えた50の国』
『デザイン歴史百科図鑑』
『元素から見た
化学と人類の歴史』

（このコーナーの担当：遠藤優紀，瀧口玲子）

金大生のための読書案内ー教員から学生へ

杉山　欣也 先生
（人間社会研究域歴史言語文化学系教授）

第27回

「ブラジルへの郷愁（サウダージ）」

令和2年1月9日～　中央図書館で展示中

教員から教員へ，リレー形式で続いている教員おすすめ図書コーナーは，今回で第27回を迎えました。
今回バトンを受け取ってくださったのは人間社会研究域歴史言語文化学系の杉山欣也先生です。

はじめに

2013年，調査の目的からリオとサンパウロを訪問しました。それ以来，私は「ブラジル」という名の病いにかかりました。そして2016年には家族とともに10ヶ月間，現地日系社会のサポートを得てサンパウロに滞在。さらにその奥深さに惹かれるに至りました。あー，ブラジルに行きたい！

しかし，悲しいかなブラジルはとても遠い。なにしろ，飛行機を乗り継いで，金沢の自宅からサンパウロまでだいたい36時間かかるのです。現在でもその調子ですから，かつて神戸や横浜の港から移民船で移住した方々はどんなに時間がかかったことでしょう。

そこで今回は，地球の反対側にあるブラジルへの旅と，ブラジルでの生活を描いた日本文学（小説や紀行文）をメインに紹介してみたいと思います。これは私なりの『ブラジルへの郷愁』（レヴィ＝ストロースの著書）です。

※全文は，下記URLもしくは2次元バーコードからご覧いただけます。https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=25881

1：ブラジルへの旅
浮遊霊ブラジル 津村記久子著，文藝春秋，2016
いつか深い穴に落ちるまで 山野辺太郎著，河出書房新社，2018
巡礼 島崎藤村著，岩波書店，1940
蒼氓 石川達三著，秋田魁新報社，2014

2：ブラジルを体験する
アポロの杯（1952）（『三島由紀夫紀行文集』収載） 三島由紀夫著，岩波書店，2018
文学海を渡る越境と変容の新展開 岩津航ほか著，三弥井書店，2016
オーパ! 開高健著，集英社，1978
オーパ! 直筆原稿版 開高健著，集英社，2014
ナーダという名の少女 角野栄子著,KADOKAWA,2014

3：ブラジルを描く
輝ける碧き空の下で 北杜夫著，新潮社，1982-1986
ノロエステ鉄道 大城立裕著，文芸春秋，1989
超積乱雲 醍醐麻沙夫著，無明舎出版，2008
NIHONJIN　Oscar Nakasato,Benvirá,2012 **にほんじん**　オスカル･ナカサト原作，ブラジル日系文学会，2012
海越えてなお 小塩卓哉著，本阿弥書店，2001
コーヒー園に雨が降る:マナブ間部自伝画文集 マナブ間部著，日本経済新聞社，1994

4：ブラジルの言葉と社会
移民と日本人 深沢正雪著，無明舎出版，2019
旅の指さし会話帳ブラジル 猪木亜弥子ファニー著，情報センター出版局，2001
O jeitinho no Japão para os brasileiros : guia prático para viver no Japão/ブラジル人のためのニッポンの裏技　松田真希子著,Shumpusha,2008
これがリオ! 尾花亮平ほか著，ウニツール，2006

●第24回「時間がありあまっている（ように思える）人への濫読のすすめ／黒田智先生（人社・学校教育系）」は自然科学系図書館で展示中です。
●第25回「人生を楽しくする本／前田肇先生（理工・物質化学系）」は保健学類図書室で展示中です。
●第26回「積読の勧め？！／中谷壽男先生（医薬保・保健学系）」は医学図書館で展示中です。

図書館トピックス

8/8 金大生による“調べ学習”教室

自然科学

環境をテーマに毎年夏休みに開催している教室には，石川県内外の小学4～6年生19名が参加しました。金大生から，テーマの決め方，調査・研究の方法，まとめ方についてアドバイスを受けながら，自然科学系図書館の環境学コレクションをはじめとした図書館資料を使って“調べ学習”に取り組んでいました。小学生の疑問に応えて適切な資料を選び，教えることは，指導した学生にとっても貴重な経験となりました。

10～11月の国際交流イベント

●English Hour! 中央 自然科学

11/11, 18　　中央図書館国際交流スタジオ

10/23, 11/6, 20　自然科学系図書館国際交流スタジオ

●English Hour! plus 中央

中央図書館　11/18

留学生からの「日本語をもっと話したい」という希望に応え，前半は英語，後半は日本語のみで会話するイベントを企画しました。

11/12-13 第18回ブックリユース市

中央

秋のブックリユース市を中央図書館エントランスホールで開催しました。今回も，多くの方が来場されました。2日間で提供した本は1,575冊で，そのうち1,099冊が新しい持ち主の手に渡っていきました。

7/24, 10/16, 11/20 ビブリオバトル

中央

第38回（7/24），第39回（10/16），第40回（11/20）を開催しました。3回とも「全国大学ビブリオバトル2019首都決戦」の予選である地区決戦の出場者をきめる予選も兼ねており，他大学からの参加も含め，バトラー及び観戦者にも熱が入った模様でした。

＊ビブリオバトルで紹介された図書は，中央図書館でミニ展示を行い，こちらも大好評でした。

また，11/22には中央図書館ほん和かふぇ。において北陸地区決戦を開催し，地区の代表者を選出しました。

図書館学生ボランティア　とぼらニュース

選書ツアーと展示

7/15　とぼら選書ツアー@うつのみや金沢香林坊店

10/15 とぼらおすすめ図書コーナーの入替

10/23 ほん和か文庫の入替

毎年恒例の選書ツアーは，香林坊のうつのみやで実施しました。すぐ試験期間に入ってしまったので，選書した図書のポップ作成は夏休みの宿題になりました。そして，夏休み明けに，中央図書館のとぼらおすすめ図書コーナー（北陸銀行文庫の隣）とほん和か文庫（ほん和かふぇ。）に配架しました。

夏のとぼらシアター（8/6）

映画

「イミテーション･ゲーム～エニグマと天才数学者の秘密～」

（2014）

試験最終日の夕方に一息ついてお楽しみいただこうと，ほん和かふぇ。で上映しました。第2次世界大戦終結を2年以上早めた男，アラン・チューリングの苦悩と栄光を描いた第87回アカデミー賞受賞作品で，ちょうど，イギリスの新紙幣に彼の肖像が使用されるニュースが発表された時期と重なったことが功を奏したのか，または，とぼらの皆さんの集客力が素晴らしかったのか，多くの参加者が，夏の夕べの映画上映会を楽しみました。

後期に入り，新規会員を3名お迎えしました。
いつからでも参加OK！詳細はこちらから
https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=18343

7月，10～11月のオリエンテーション，講習会

中央　自然科学　医学

●7/22-25 ラーニング・サポートウィーク夏 中央
レポートを作成するにあたり，①テーマの決め方，②客観的な事実や先行研究の探し方，③作成テクニックの基礎について，一連の流れとして説明しました。

●10/3-4 留学生向けオリエンテーション
10/3-4 Step1 中央図書館館内ツアー 中央
11/5-8 Step2 利用説明会 中央 自然科学

Step1では，図書館の基本的な使い方とよく利用される中央図書館の館内案内を，Step2では，OPACや電子ジャーナルの使い方を説明しました。

●10/29, 31, 11/1 卒論・レポートのための資料の探し方・集め方 中央
7月のサポートウィークをうけ，資料の取り寄せ（ILL）サービスについて説明を行いました。

●11/22 データベースEBMR講習会 医学
医療従事者向けのオンラインデータベース「EBMR」や「Ovid Medline」との連携について，提供元のWolters Kluwer（LWW/Ovid）の担当者が説明を行いました。

資料展示

中央図書館

●企画展示「こうして本になる」（10/17-11/12）

自然科学系図書館

●企画展示「リクエスト購入図書展示」（10/4-10/31）
●企画展示「食べる・作る」（11/15-1/10）

医学図書館

●企画展示「図書館でできるCBT/OSCE対策」（7/22-9/6）
●「医学展＆ホームカミングデイ」ミニ展示（10/25-11/8）

その他の活動

●6/28-8/27　電子ブック試読サービス→9/26提供開始
●7/5-7/25　附属図書館利用者自己点検・評価アンケート
●10/30　図書館ブックトーク＃3（➡詳細はp.6～8へ）
●11/1　金大図書館時習基金設立（➡詳細はp.12へ）
●11/5-24　「あなたが選ぶ北陸銀行文庫2019」募集

編集後記

「こだま」200号刊行記念号は，中央図書館角間移転30年記念号ともなりました。巻頭記事の城内キャンパスの写真など，学生の皆さんにとっては目新しかったのではないでしょうか。最終ページには，この11月に開始した「金大図書館時習基金」について紹介しました。「時習」の由来は，城内よりもっと古く，四高時代に遡ります。歴史は引き継がれていくことに思いをはせる編集作業となりました。

広報委員会メンバー
橋　洋平　瀧口玲子　伊藤美和　笠原健司
原口　遼　川井奏美　遠藤優紀　押見智美

●寄稿● 海外の図書館に行ってきました

静謐と歴史と。

今年の秋，私はロサンゼルスのUCLAにいた。向かったのはUCLA最古の建物の一つであり，そろそろ100年を迎えるらしいPowell Libraryである。

入って感じたのは，その静謐さだった。歴史ある建造物と静かに学習に耽る学生達が，無言であるが故に作り上げる独特の雰囲気。素晴らしい静寂，そして『場』であった。

図書館は，ただ図書館として存在できるのではない。寧ろ積み上げられた歴史と，利用する人々の行為によって真に場所としての図書館を提供できるのではないか。今回の訪問を通じて，ふとそんなことを思ったのである。

神部滉陽（人文学類4年／とぼら）

金沢大学附属図書館報「こだま」第200号

令和2年1月16日発行　発行：金沢大学附属図書館
編集：広報委員会　印刷：株式会社 橋本確文堂
〒920-1192 金沢市角間町　TEL：076-264-5200
E-mail : etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp

＊この印刷物は再生紙を利用しています。

「金大図書館時習基金」11月1日スタート!

令和元年11月1日，金沢大学附属図書館は新たに「金大図書館時習基金」を立ち上げました。

「金大図書館時習(じしゅう)基金」は，金沢大学の前身校の一つである第四高等中学校に置かれた「時習寮」から名付けました。
「時習寮」は，1893(明治26)年10月に建設された木造2階建ての寮。村上長之助教授により，『論語』学而編 冒頭の「学而時習之(学びて時にこれを習う)」にちなんで命名されたものです。附属図書館では，この名前に前身校から受け継ぐ学生の自学自習の精神を尊び，応援する心意気を込めています。

金沢大学附属図書館は，先進的な学術情報基盤の整備に精力的に取り組むとともに，学生，教職員，市民の皆様等様々な利用者のニーズに応える利用者志向のサービスを提供することにより，これまで金沢大学の教育・研究活動を長く支えてきました。しかしながら，国立大学法人化以降の運営費交付金の削減傾向，近年の光熱水料増加や電子ジャーナルの価格高騰と，大学図書館を取り巻く財政状況は年々厳しさを増してきています。
そこで，今後も安定して事業を継続し，図書館に求められる役割を果たし続けるため，新たに基金を設立し，学内外の皆様に広くご支援をお願いすることになりました。
金大図書館時習基金は，附属図書館利用者の利便性・快適性の向上，所蔵資料の保存・活用を継続的に実施していくための基金です。皆様のご支援，ご協力を心よりお願い申し上げます。

基金の使途：この基金へのご寄附は，以下の事業に活用します。

(1)所蔵資料の保存修復及び貴重資料のデジタルアーカイブ化

第四高等学校蔵書や暁烏文庫など，本学が誇る既存のコレクションや貴重資料の保存や修復を行うほか，利用者の方々が気軽に閲覧できるよう，貴重資料のデジタルアーカイブ化を進めます。

(2)図書館設備の整備・充実

本学学生をはじめとする多様な利用者の方々が，快適・安全に図書館をご利用いただけるよう，館内設備のさらなる充実を図ります。

特典：ご寄附いただいた方には，次の特典を用意しています。※特典は許可を頂いた方，希望される方のみを対象とします

●すべての方へ：附属図書館Webサイト及び「こだま」へご芳名を掲載します。

●ご寄附の総額に応じて

【個人 3万円以上】永年利用可能な附属図書館利用券を発行し，図書については，本学学生・教職員と同じ冊数まで貸し出しが可能となります。※現在本学に在籍中の方については，卒業，異動，退職された後の発行となります。在籍中は，学生証，職員証をそのままご利用ください。

【個人 5万円以上／法人・団体等 10万円以上】館内に設置する銘板にご芳名を掲載します。※現在準備中です。

ご寄附のお手続きはこちら：https://kikin.adm.kanazawa-u.ac.jp/kikin/contents/?fund_id=9

その他，詳しくは
金大図書館時習基金Webサイトへ
https://library.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=24796

金大図書館時習基金についてのお問い合わせ先
金沢大学附属図書館　情報企画課総務係
TEL：076-264-5200
E-mail：jishu@adm.kanazawa-u.ac.jp